

ありこしざわ きょうりょう  
**29** 有越沢橋梁 (大正元年)

日光市足尾町中才



原向駅から下り線で約3分半、通洞駅から上り線で約1分半で見えはじめます。全長14m、上路式プレートガーダー形式の橋です。橋の付近には、足尾銅山で働く職員や鉱夫(こうぶ)のための社宅が数多く残っており、足尾銅山が操業していた頃の雰囲気伝える貴重な景観を、眺めることができます。

つうどう きょうりょう  
**30** 通洞橋梁 (大正元年)

日光市足尾町中才



原向駅から下り線で約3分半、通洞駅から上り線で約1分半で見えはじめます。全長13m、上路式プレートガーダー形式の橋です。かつて東洋一と呼ばれた通洞選鉱所(つうどうせんこうじょ)の出入口のため、架けられました。現在選鉱所の操業は行っていませんが、近くに変電所などの産業遺産を見ることができます。

つうどうえき ほんや  
**31** 通洞駅本屋及びフラットホーム (大正元年)

日光市足尾町松原字新梨子裏5400-7



**通洞駅本屋**

足尾の中心市街地である通洞地区の玄関口として大正元年に設けられました。大正10年に、銅山を経営する事務所をはじめとする機能が通洞地区に集約されたことから、通洞駅の重要性はさらに高まりました。駅舎は昭和11年に改修されましたが、木造平家建てで、本屋の正面・背面・側面の上部3カ所には柱や梁(はり)を外に現したハーフトンバーが外観の特徴となっています。現在は、足尾銅山観光、足尾歴史館などの最寄り駅として、行楽シーズンには多くの観光客で賑わっています。

**通洞駅プラットホーム**

大正元年に建設されたもので、擁壁は間知石による割石積みです。後に中央部分は割石一段分がかさあげされましたが、開業からいまなお現役で使われています。

しづがわ きょうりょう  
**32** 渋川橋梁 (大正元年)

日光市足尾町赤沢・松原



通洞駅から下り線で動き出してすぐ、足尾駅から上り線で約1分半で見えはじめます。全長14m、上路式プレートガーダー形式の橋です。足尾銅山の発見と開発はこの橋の上流から始まったといわれており、銅山とともに盛衰を繰り返したまちを大正以降見守り続けてきた橋です。

あしおえき ほんや  
**33** 足尾駅本屋及び上り線フラットホーム (大正元年)

日光市足尾町掛水字上掛水2316



**足尾駅本屋**

足尾銅山を経営する事務所や古河掛水倶楽部(ふるかわかけみずくらぶ)があった足尾銅山の中枢部に、大正元年に設けられました。当時の本屋は、現在の大間々駅と同じく入母屋造(いりもやづくり)で、切妻造(きりづまづくり)であった他の小規模な駅とは異なっていました。本屋は、昭和13年に改修されましたが、特に外部は大きな改造もなく、今も現役で使用されている木造平屋建ての素朴な建物です。

**足尾駅上り線プラットホーム**

大正元年に建設された桐生方面に向かう全長109mのプラットホームです。擁壁は間知石による割石積みで、縁石を並べて砂利で舗装しています。開業からいまなお現役で使われています。

あしおえき  
**34** 足尾駅下り線フラットホーム (大正元年)

日光市足尾町掛水字上掛水2316



間藤方面行きのプラットホームで、全長109mです。構造も上りプラットホームと同じく間知石による割石積みです。全面が砂利舗装のまま残されており、旧足尾鉄道の各駅のプラットホームのなかでも建設当時の姿を留めた貴重なものです。